

韓国ドラマの日本語訳から見た対称詞運用の日韓対照

金知垠(大阪府立大学研究生)

1. はじめに

日本語と韓国語の人称詞には類似点が多く、韓国人日本語学習者にとって日本語の人称詞の学習と習得はそれほど難しくないと認識されているが、実際の運用面では両言語で相違点が多いということが指摘されている(鄭恵先, 2002). 人称詞の中でも、話し手が自分自身に言及する自称詞や、第三者に言及する他称詞に比べ、話し手の相手に言及する対称詞(鈴木, 1973)の運用には待遇的配慮がより必要とされるだろう. したがって、両言語の異なる対称詞の運用が円滑なコミュニケーションを妨げたり、対人関係に悪影響を与えたりすることも考えられる. そこで本発表では、まず対称詞の使用頻度差から、対称詞使用に対する規制が両言語で異なっていることを指摘し、その中で選択される対称詞の表現と、対称詞の呼格的用法と代名詞的用法における異なる側面を見ていきたい.

2. 対称詞について

対称詞とは、人称代名詞のほかに親族名称や地位名称などを一括して、話し手の相手を示すことばの総称である. 対称詞には性質の異なった二種類の用法があり、第一は、相手の注意を引きたいときや相手に感情的に訴えたい場合などに用いられる呼格的用法(vocative use)である. 第二は、欧米の一部の人類学者によって代名詞的用法(pronominal use)と呼ばれるもので、ある文の主語、また目的語として用いられたことばが、内容的には相手を指している場合を言う. インド・ヨーロッパ語では、相手に言及する内容を持つ文の主語、または目的語には通例二人称代名詞がくるところから名付けたものである(鈴木, 1973).

3. 分析資料と調査方法

対訳資料は人間関係や場面などが同じ条件で発話された表現を、起点言語と目標言語とで比較することができる. つまり、同一対称詞使用機会において両言語の対称詞使用状況がうかがえる. ドラマの対訳には字幕版と吹き替え版があるが、字幕版は字数制限による情報量減少の可能性があるため、吹き替え版を分析対象とした. また、韓国ドラマの日本語対訳資料で実際の対称詞運用とはずれがある可能性と、韓国語の言語行動や習慣が反映されて日本語としてはやや異質的な表現がある可能性を断っておきたい.

調査方法としては、韓国ドラマ(DVD版)1話約60分、計12話分の韓国語版(原版)と日本語吹き替え版(日本語版)から、対称詞が出現するセリフを抽出して両版での使用状況を比較した.

4. 分析と考察

4.1. 対称詞の全般的な使用傾向

対称詞の使用は韓国語版に1248件(K), 日本語版に758件(J)がある. 両版に共通して出現した対称詞は718件(kj), 韓国語版のみ出現した対称詞は530件(k), 日本語版のみ出現した対称詞は40件(j)である.

両版で共通して出現した対称詞と、各言語版のみで出現した

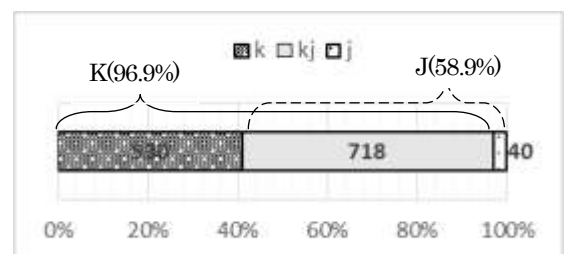


図1 対称詞使用機会での対称詞使用率

¹ 梁瀬(2013)によれば、会話部分において吹き替え版が字幕版の1.5倍程度の文字数であり、字幕版のほうが意味内容減少の度合いが強いという結果を示している.

² 『ごめん、愛してる(미안하다, 사랑한다)』『イタズラなKiss(장난스런 Kiss)』『その冬、風が吹く(그 겨울, 바람이 분다)』各1話~4話

対称詞を合わせて対称詞の使用機会($k+k_j+j$)とすると、対称詞使用機会総数は1288件になる。この対称詞使用機会総数を分母にし、各言語版での対称詞使用数(k, j)を分子にすると、対称詞の使用率が分かる。図1を見ると、日本語版の対称詞使用率(58.9%)は、韓国語版(96.9%)に比べて低いことが見て取れる。つまり、日本語版のセリフでは、韓国語原版から多くの対称詞が削除されており、そのことから日本語は韓国語より対称詞使用にかかる規制が強いと予想される。対称詞は相手に言及することばであるため、対称詞による相手指示の言語行動は社会的に規制されるが、その度合は両言語で異なるようである。その他、対称詞使用規制には授受・受動表現、表現主体の視点などの構文的な要因も関わると考えられるが、それらについては機会を改めて考察したい。

4.2. 対称詞の表現選択

対称詞の語類には人称代名詞類、人名類、親族名称類、普通名詞類、職業・地位名称類が見られる。図2は対称詞使用機会での語類別使用率であるが、人称代名詞(韓45.3%, 日23.6%)と親族名称(韓16.5%, 日8.5%)は日韓で大差が見られる。それに対し、人名(韓16.9%, 日13.6%)と職業・地位名称(韓3.8%, 日4.0%)はそれほど日韓差が見られない。日本語版では「あんた」「お前」などの人称代名詞と「兄貴」「お兄ちゃん」などの親族名称が、韓国語版の半分程度の使用にとどまっている。その反面、人名と「秘書」「先生」などの職業・地位名称の使用は韓国語版のものとそれほど変わらないのである。つまり、日本語は対称詞使用が全般的に少ない中で、特に人称代名詞と親族名称の使用に韓国語より強い規制がかかるが、人名と職業・地位名称への規制は比較的緩いようである。

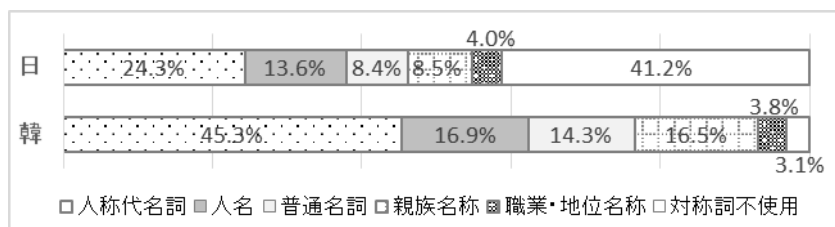


図2 対称詞使用機会での語類別使用率

人称代名詞で相手を指すことは直示の失礼さがあり(三輪 2005)、目上に使いにくい待遇性は両言語で共通している。しかしながら、人称代名詞使用率は両言語で大差があり、日本語は韓国語より人称代名詞の使用に心理的な違和感が強いようである。

そして、血縁関係のない人に親族名称を使う虚構的用法(fictive use)の使用は両言語で類似しているが、親族名称の虚構的用法は日本語より韓国語で多い(林炫情, 2003)。虚構的用法を多用する言語習慣の違いから両言語に差が生じたと考えられる。

一方、人名は「さん」という敬称や、「ちゃん」「くん」などの親称で待遇的制約が解消される。また、職業・地位名称は相手自身ではなく、その人の役割を呼ぶという間接性の点でネガティブポライトの表現手段(滝浦, 2008)である。そのため、人名と職業・地位名称の使用においては規制が緩和され、韓国語とほぼ変わらず使用されると考えられる。

4.3. 対称詞の呼格的用法において

相手の注意を引きたいときや、相手に感情的に訴えたい場合などに用いられるのが、呼格的用法の対称詞である。韓国語版の呼格的用法の対称詞は43.6%(598件中261件)が日本語版で削除されているが、削除された対称詞の18.0%(261件中47件)は感動詞の呼びかけに代わっていた。三輪(2005)によれば、日本語の対称詞は話し手が自分との関係で相手をどう位置付けているかという、話し手による相手の評価や待遇の意味があると述べられている。感動詞への言い換えは、対称詞使用による対人関係へのリスクを回避する方策であり、日本語が韓国語より対称詞使用に規制されている傍証であろう。

そして、呼格的用法には同一人物に対して異なる二つの対称詞を連続して呼びかける重ね用法(東出・松村, 2016)があるが、韓国語版では日本語版に比べて重ね用法が多く見られる。(1)~(2)は韓国語の重ね用法の例であるが(括弧の中は筆者訳)、韓国語版では全体呼格的用法の内12.7%(589件中76件)の対称詞が重ね用法として使用されている。(3)~(5)は日本語の重ね用法の全例であり(括弧の中は発話場面説明)、日本語版では全体呼格的用法の内、重ね用法として使用された対称詞は1.6%(356件中6件)である。

- (1) 야, 봉준구, 넌 왜 남의 집을 부수고 그래.
(ちょっと, ボン・ジュング, あんた何で人んちを壊したりするの)
- (2) 야, 친구야, 넌 게 좋아하잖아. 많이 먹어. (おい, 友よ, あんたかに好きだろう.たくさん食べて)
- (3) 오・하니, あんた! (居候している同級生の図々しい依頼にあきれて怒鳴りつける)
- (4) もう, ジュング, あんたちよっとは空気読みなよ! (自分の意図に気づかず, 水を差した友達に怒る)
- (5) ウンジョ, 礼儀知らずめ, お姉さんに謝れ! (友人の娘に失礼な行動をとっている息子を叱る)

東出・松村(2016)によれば, 重ね用法は話し手の持つ想定と現実のずれのもとに発話され, この呼びかけ語の使用は有標の感情, 大抵はマイナスの感情を表出すると指摘されている. 東出・松村の指摘とおり(3)～(5)を見ると, 日本語版の重ね用法の全例は, 相手に対する話し手のマイナス感情が表出される場面であることが分かる.

一方, 韓国語版の重ね用法は(1)のようなマイナスの感情表出場面にも見られるが, (2)のように親友と再会した嬉しさが表れる場面や, 娘の命を助けてくれた相手に感謝する場面, 相手の体調を心配する場面などでも見られ, 日本語に比べて使用される場面が広いと考えられる.

4.4. 対称詞の代名詞的用法において

文の中で相手を指示するときに用いられるのが代名詞的用法の対称詞である. 代名詞的用法の対称詞が連体修飾語として使用される場合があるが, 日本語版より韓国語版で多く見られる. 対称詞に修飾される体言を見ると, 韓国語版ではその24.0%(125件中30件)が家族を表すことばである. それに対し, 日本語版では対称詞に修飾される体言が家族を表すことばであるのは8.5%(70件中6件)である.

鄭恵先(2002)によれば, 韓国語は家族を指す語彙にウチ・ソトの区別がないため, 複数形自称詞「우리(ウリ)」が連体修飾語として付け加えられ, ウチ・ソトの区別機能を果たすと述べている. 複数形自称詞と同様, 韓国語版で家族を表すことばに対称詞が付くのは, ウチ・ソトを区別するためが多いと考えられる.

しかし, 日本語の家族を表すことばはそもそもウチ・ソトの区別があり, そこに対称詞が付く場合が有標な形式であろう. その一例が(6)～(7)であるが(括弧の中は発話場面説明), ほとんどが話し手のマイナス感情の表出される場面である. 一方, (8)～(9)は韓国語版の例であるが, 話し手が相手側に対してプラス評価を表明する場面にも対称詞が見られ, 日本語とは異なっている. (括弧の中は筆者訳)

- (6) お前の母さんは, こんな程度の生活で, こんなぼんやりしたバカだけど, 子供を捨てたりしないだろ!
(知能の低い母親の過ちを許さず, 母親の謝りを無視している甥を叱る)
- (7) 笑わせる. あんたのオヤジ足が悪いだろ? じいさんがバイクなんか乗るんじゃないよ.
(相手の父親を侮辱する)
- (8) 왜? 너무 좋으신데. 너네 엄마, 참 좋아.
(どうして?とてもやさしいのに… あなたのお母さん大好き)
- (9) 참, 니네 오빠 정말 멋있더라. 애들이 다 난리다, 야.
(そういえば, あなたのお兄さん本当に格好いいね. みんな騒いでるよ, ほら)

そして, 代名詞的用法の対称詞が主語として使用される場合と目的語として使用される比率を調べて見たが, 韓国語版の4.0:1に対して日本語版は2.8:1であり, 日本語版は対称詞を主語として使用することが少ないのが分かる.

韓国語は動作主体を主語にして文を構成する傾向が強いが, 日本語は物事を主語に立て, 事態の成り行きで現在の状態に立ち至ったという表現が多用される(滝浦・大橋 2015). 日本語で主語の対称詞使用が少ないのは, このような構文的な要因も関わるだろう. しかし, そもそも対称詞使用規制の強い日本語で, 対称詞が主語として使用されると, 動作主体を前景化して相手の行為を明示する働きをするため, 控えられているとも考えられる.

5. まとめ

これまで韓国ドラマの対訳資料を分析対象にし, 両言語の対称詞運用の相違について考察した. 同じ場面

での同一発話量にもかかわらず、対称詞の使用頻度は日本語版で低く、日本語では韓国語より対称詞使用に強い規制がかかると考えられる。また、日本語版では人称代名詞類と親族名称類が韓国語版の半分程度しか使用されていないが、人名類と職業・地位名称類の使用は韓国語版それほど変わらず、両言語の対称詞表現選択の相違が見られた。

対称詞の各用法内の運用においても両言語の異なる側面が見られた。韓国語版の呼格的対称詞の多くが、日本語版では削除されたり、感動詞に言い換えられたりして、対称詞使用の回避が見られた。そして、韓国語版では呼格的用法の対称詞の重ね用法が広い場面で見られたが、日本語版では数少なく、マイナス感情が表出される場面でしか使用されなかった。

代名詞的用法においては、韓国語版では家族を表すことばが対称詞に修飾されることが多く、ウチ・ソトの区別を目的で対称詞が付く場合が多いと考えられる。しかし、日本語版で家族を表すことばが対称詞に修飾された場合は、マイナスの感情が表出される場面であり、日本語の連体修飾の対称詞は有標な働きをすると考えられる。また、韓国語版では対称詞を主語に立てることが多いが、日本語版では対称詞を主語として使用することが少ない。主語の対称詞は動作主体を前景化するため、対称詞使用規制の強い日本語では、対称詞の主語としての使用が控えられと考えられる。

日本語と韓国語は人称代名詞で目上を指しにくく、親族名称が虚構的用法でよく使われ、職業・地位名称を対称詞として使えることなど、似通ったところが多い。しかしながら、対称詞の使用に対する規制、対称詞の語類選択、各用法内での運用において異なる側面もある。

対称詞は相手に言及することばであり、その使用は対人関係に影響する。ところが、相手を言及・指示する言語行動に対する社会的規制は両言語で大いに異なるようであり、異文化間コミュニケーションにおいて潜在的摩擦要因となりうる。一見類似しているように見える両言語の対称詞運用の相違を明らかにすることは、円滑な日韓コミュニケーションのために必要であろう。また、その情報は日本語教育にも有益に活用できるだろう。

参考文献

- 鄭恵先(2001)「日本語と韓国語の人称詞に関する対照研究」『人間文化学研究集』10 pp33-45 大阪府立大学大学院人間文化学研究科
- 鄭恵先(2002)「日本語と韓国語の人称詞の使用頻度—対訳資料から見た頻度差とその要因—」『日本語教育』114 pp30-39 日本語教育学会
- 鄭恵先(2005)「日本語と韓国語における人称詞の使用実態—アンケート調査の分析結果から見る頻度差と用法の相違—」『計量国語学』23-7 pp333-346
- 東出・松村(2016)「呼びかけ語の二人称対称人称詞—談話における特殊な機能を中心に—」『言語文化論究』37 pp37-50 九州大学大学院言語文化研究院
- 林炫情(2003)「非親族への呼称使用に関する日韓対照研究」『社会言語科学』5-2 pp20-32 社会言語科学会
- 三輪正(2000)『人称詞と敬語—言語倫理学的考察—』人文書院
- 三輪正(2005)『一人称と二人称と対話』人文書院
- 三輪正(2010)『日本語人称詞の不思議—モノ・コト・ヒト・キミ・カミ—』法律文化社
- 鈴木孝夫(1973)「人を表すことば」『ことばと文化』pp129-206 岩波新書
- 滝浦真人(2007)「呼称のポライトネス—人を呼ぶことの語用論—」『言語』36-12 pp32-3 大修館書店
- 滝浦真人(2008)「距離とポライトネス」『ポライトネス入門』pp 75-95 研究社
- 滝浦真人・大橋利枝(2015)『日本語とコミュニケーション』放送大学教育振興会
- 田窪行則(1997)「日本語の人称表現」『視点と言語行動』pp14-44 くろしお出版
- 梁瀬みき(2013)「字幕と吹き替えの比較」『日本文学』109 pp127-143 東京女子大学